

国税庁長官賞

「戦争と税金」

新宿区立牛込第二中学校 第三学年

今年は戦後七十年と言う節目の年なので、連日新聞やテレビで戦争に関する事が報道されています。ある日何気なく見ていたテレビで、戦争にはたくさんのお金が使われていた事を知りました。私は今まで戦争をするのにどうやって資金を調達していたのか考えた事もなかったので、国民の税金が使われていた事を知り本当に驚きました。それをきっかけに戦争と税金について調べてみました。

一八九四年の日清戦争に始まり一九四五年の終戦まで約五十年間、日本は戦争を繰り返してきました。戦争をするにはとにかくたくさんのお金が必要となります。そのお金こそが税金と国の借金によってまかなわれていたのです。

戦争に関するお金とは、陸海軍経費、徴兵費、臨時事件費、特別会計臨時軍事費のことで軍事費と呼ばれていました。太平洋戦争の後半一九四四年には国の財政の八十%超も軍事費が占めていて、その金額はおよそ七百三十五億円だったそうです。軍事費を得る為に会社や個人には様々な形で税金がかけられていたようですが、成人男性が皆戦地に行っている中で、税金を取り立てる人も取り立てられる人達も本当に苦難の毎日だったと思います。

そんな中、戦費を確実に確保する為、源泉徴収制度が一九四〇年に始まりました。お給料の中から、事前に計算された一定額が毎月税金として徴収されるようになったのですが、当時だけではなく、戦争をしていない現在にも続いている制度だと言う事は、とても合理的で画期的なシステムが開発されたのだと思います。今では、勤め人にとっては当たり前の制度として認知されている源泉徴収制度。使い勝手がよく、便利な制度は戦争をしていようがしていなかろうが続くのだなと思います。

二〇一五年現在の我が国は、もちろん戦争はしていません。しかし、平成二七年度の当初予算では、国の防衛のために防衛関係費として歳出総額のうち五・二%に相当する約四兆九千八百億円が計上されています。割合としては低い気はしますが、とてつもなく莫大な金額です。

昔とは違い全てが戦争の為と言う訳ではないのでしようが、世界中から戦争がなくなり平和な世の中が続けば、防衛関係費を少しでも減らす事ができるのではないかと思えます。そしてその分を社会保障関係費や教育、災害用の経費に回せるのではないかと感じました。地球上で、戦争のない平和な世の中を築くことができれば、税金の使い道も変わって、皆今よりずっと幸福になれるのではないかと思います。平和と税金、一見何のつながりもないこの二つの言葉ですが、世界中で考えていけばきっと救われる人はいるに違いないと思えました。